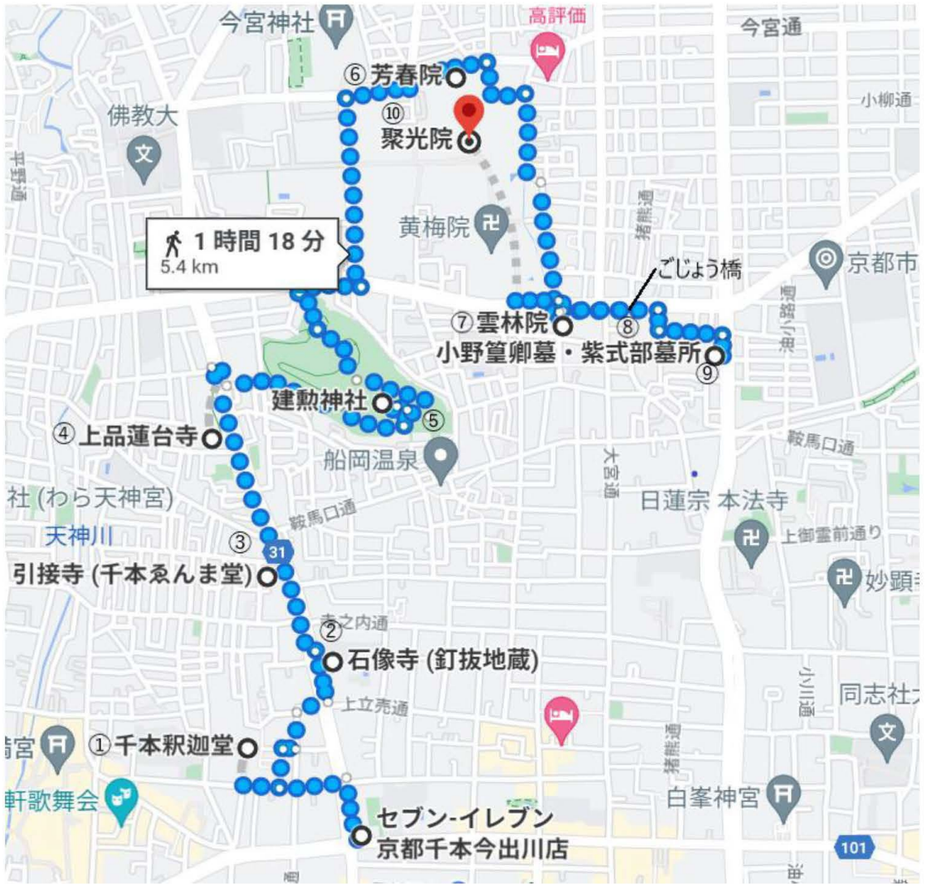
第６回 身近な京都を知る歴史散策（北野・蓮台野・紫野）
京七野を巡る①

主催：特定非営利活動法人平安京調査会
https://heiankyo-tyousakai.com

１．散策コース（全行程約 5.4Km）

出発 千本今出川

① 大報恩寺（千本釈迦堂）
② 石像寺（釘抜地蔵）
③ 引接寺（千本釈迦堂）
④ 上品蓮台寺
⑤ 船岡山（建勲神社）
⑥ 大徳寺塔頭（芳春院）
⑦ 雲林院
⑧ ごじょう（御浄）橋
⑨ 紫式部・小野篁　墓
⑩ 大徳寺塔頭（聚光院）　解散



２．初めに

今回は平安宮の北側を囲むようにある 7 箇所の野（京七野）の内、北野・蓮台野・紫野の３箇所を巡ります。その他には内野・平野・上野・〆野があります。ただし、内野は寂れてしまった平安宮内を指しますし、上野・〆野は地名としては現在残っていません。

「野」というのは自然のままの広い平らな地や野原を指すと思われます。平安時代の京は都の中にお墓を作ることが禁じられていました。死者が出れば穢れとなりますので、どこかに葬ることになりますが、その場所として「野」が選ばれています。化野や鳥辺野は有名な葬送地として知られていますが、他の「野」もそういうことに利用されたと思われます。広く平らな野原は静観であり王族や貴族の別荘地や寺院として、また遊猟地としても使われていました。

今回はそういう野を巡りながら、平安時代以降の著名人との関わりのある場所や大徳寺の塔頭に残る庭園や墓を見学していきます。

３．散策ルートと史跡

① 大報恩寺（千本釈迦堂）

大報恩寺は藤原秀衡の孫と伝える義空上人の開創で、真言宗智山派の名刹です。

本堂(釈迦堂)は 1227 年（安貞 1）創建時のままで、京洛中最古の仏堂建築で国宝です。本尊釈迦如来坐像（重文）のほか霊宝殿に快慶作の十大弟子像をはじめ、六観音像など多くの優れた文化財や仏像があります。

上棟式に使われる棟札のおかめにまつわる伝説が残り、境内の「阿亀(おかめ)桜」は花時に見事な姿となる枝垂の桜です。

12 月 7・8 日は諸病封じの大根焚きで賑わいます。

② 石像寺（しゃくぞうじ　釘抜地蔵）

石像寺は、空海（弘法大師）によって創建されました。御本尊は、空海が唐から持ち帰った石に自ら彫ったと伝わる地蔵菩薩です。その地蔵菩薩は、3 尺 6 寸（1.09m）の石像で、人々を諸悪・諸苦・諸病などの苦しみから救済してくださるよう祈願して「苦抜（くぬき）地蔵」と名付けられたと伝わります。

鎌倉時代、重源（ちょうげ）が中興し浄土宗に改宗。その後、歌人・藤原家隆が入寺し、以後、山号は「家隆山」になりました。

室町時代末期頃に「くぬき」がなまって「くぎぬき」の名で知られるようになり「釘抜地蔵」と呼ばれようになりました。

墓地には藤原定家、家隆の供養塔があります。

③ 引接寺（いんじょうじ　千本ゑんま堂）

開基は小野篁。高野山真言宗光明山歓喜院引接寺、本尊は閻魔法王で「千本ゑんま堂」として親しまれています。朱雀大路頭に閻魔法王を安置したことに始まります。古来より精霊迎えの霊場として参詣者で賑います。紫式部の供養塔・多重石塔(重要文化財)や普賢(ふげん)桜、京都三

大念仏狂言の一つ、「ゑんま堂狂言(市登録無形民俗文化財)」などが有名です。

④　上品蓮台寺

上品蓮台寺は京の葬送地、京七野の一つ蓮台野に広い寺域を構える由緒ある古刹です。真言宗智山派で蓮華金宝山九品三昧と号する寺院で、創建は聖徳太子と伝えられています。

上品蓮台寺は応仁の乱で堂宇が焼失した後、文禄年間に豊臣秀吉の帰依を得て寺領 110 石で性盛上人（しょうせいしょうにん）によって十二の支院が立ち並ぶ広大な規模の寺院に復興しました。この為に寺が「十二坊」の名で呼ばれるようになり、この辺りの地名は今も「十二坊町」で上品蓮台寺の隣には「十二坊交番」が控えています。

村上天皇より賜った上品蓮台寺の勅額を掲げる本堂には本尊の延命地蔵菩薩がお祀りされています。貴重な文化財も多く、国宝紙本着色絵因果経（えいんがきょう）は紙の下半分に経文を上半分に経文の内容を説明した絵画を描いた経典としてよく知られていて、京都国立博物館に寄託されています。絹本着色文殊菩薩像と絹本着色六地蔵像は国の重要文化財に指定されています。

⑤　船岡山（建勲神社）

船岡山は平安京造営の際、四神相応の玄武の地とされました。平安時代は景勝、遊興の地で、後に葬送の地となり、中世には山城が築かれ、応仁・文明の乱(1467 - 1477)では西軍の陣が置かれました。山頂からは市内の景色が見晴らせます。その中にある建勲神社は織田信長の偉勲を称え、明治天皇が創建。境内から見る東山の景色は絶景です。一の鳥居は府下最大の紅檜(べにひのき)の素木(しらき)造りです。

⑥　大徳寺・塔頭 1

鎌倉時代末期に建立の禅宗寺院。22 の塔頭と二つの別院をもちます。千利休が参禅し、茶の湯にも縁が深く、大徳寺の茶面(ちゃづら)と称されました。かつて秀吉により織田信長の葬儀が盛大に行われました。写真は、利休の切腹の発端となったともいわれる、三門「金毛閣」(重要文化財)です。常時拝観可能な塔頭は龍源院、瑞峯院、大仙院、高桐院です。

⑦　雲林院

雲林院は、淳和天皇（在位・823−833）の離宮・紫野院として造営されたのが始まりです。桜や紅葉の名所として知られ、淳和天皇は度々行幸していました。

その後、仁明天皇の離宮となり、さらに皇子の常康親王に譲られました。常康親王死後の 869 年（貞観 11 年）、遍昭が招かれて雲林院となります。『源氏物語』第十帖「賢木(さかき)」に雲林院が登場します。雲林院は、鎌倉時代までは天台宗の官寺として栄えましたが、その後衰退し、1324 年（正中元年）、雲林院の敷地内に建立された大徳寺の塔頭となりました。

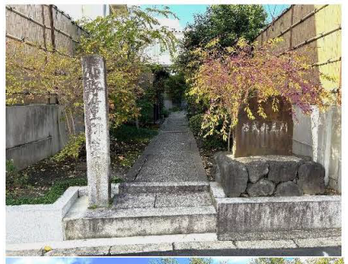
しかし、応仁の乱の兵火により廃絶しました。現在の雲林院は 1707 年に再建されたものです。

⑧　ごじょう橋跡（牛若丸御浄橋伝説）

雲林院内に築山町があり、町内には「常盤井」があり、常盤御前を偲ばせます。また、近くには有栖川に架かっていた「御浄の橋」があり、ここで弁慶と出会った場所と言われています。

有名な五条の橋は平家の本拠地・六波羅の南の入口にも当たり、そこへ源氏の御曹司が夜な夜な出向くとは考えにくく、大徳寺道の一つ西の通りは今も牛若通があり、母・常盤御前が嫁いだ一条長成の邸宅は一条大路沿いにあったとされていることからも、かの「ごじょう橋」はこの辺りにあった可能性は高いと思われます。

⑨　紫式部・小野篁墓



紫式部のお墓の名称は「紫式部墓所」といいます。

入口には「紫式部墓所」と彫られた石碑があります。

石碑の裏にムラサキシキブという植物が植えられており、季節によって花や実をつけるので景観はとても美しいです。

墓所のあるスペースは、雲林院の敷地内にあたる場所でもあります。紫式部の晩年はよく分かっていませんが、一説では雲林院というお寺で過ごしたそうです。

紫式部の墓の隣には小野篁の墓があります。小野篁は閻魔大王と紫式部の間に立ち大王を説得して紫式部を地獄から解放されたと信じられており、小野篁の墓をここに移したと言われています。

⑩　大徳寺・塔頭 2

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・MEMO・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・